

Lychee Redmine バージョンアップ手順書

Ver.1.1(20250528)

目次

1. はじめに	2
注意事項	2
2. バージョンアップの前に	3
利用者への告知	3
バックアップの作成	3
Redmine インストールパス全体	3
データベースのバックアップ	3
3. Lychee Redmine のバージョンアップ	4
最新版モジュールの入手	4
バージョンアップの実施	4
既存フォルダの退避(移動)	4
rgloader の配置	4
Lychee Redmine の配置	5
(Linux のみ)ファイルオーナーの確認と変更	5
バージョンアップの実施	5
(Linux のみ)ファイルオーナーの再変更	6
バージョンアップ後の作業	6
既存プラグインを戻す	6
Redmine を再起動する	6
4. トラブルが発生した場合	8

1. はじめに

本書は Lychee Redmine のバージョンアップ手順を記載した手順書となります。ここではバージョンアップ時の注意事項について記載いたします。

注意事項

- バージョンアップの際にはすべての Lychee Redmine プラグインを最新版に置き換える必要があります。
- Lychee Redmine の動作環境は以下のページをご確認ください。
<https://lychee-redmine.jp/environment/>
- ご利用されている Lychee Redmine や Redmine のバージョンによっては、個別でコマンドの実行が必要になる場合があるため、事前に以下のページの重要なお知らせをご確認ください。
<https://www.techmatrix.co.jp/secure/quality/lychee/support/notices.html>
- Redmine をインストールしたパスは、インストールの方法やサーバーの OS によって異なります。本書では[Redmine インストールパス]と記載しておりますので実際のインストールパスに読み替えてください。

2. バージョンアップの前に

ここでは Lychee Redmine のバージョンアップ前に行う作業について記載します。

利用者への告知

バージョンアップに伴い Redmine 自体の停止や再起動を伴います。利用者に影響が発生しますので、可能であれば営業（業務）時間終了後や週末など利用者が少ない時間帯に実施ください。また、利用者への事前の通知もお勧めいたします。

バックアップの作成

バージョンアップの実施前に必ずバックアップを作成してください。

Redmine インストールパス全体

[Redmine インストールパス]を丸ごとコピーするなどしてバックアップを作成します。

データベースのバックアップ

MySQL を使用している場合

mysqldump コマンドを実行してデータベースのダンプデータを取得します。

DB ユーザー名、DB パスワード、Redmine データベース名は[Redmine インストールパス]/config/database.yml 内の username, password, database を参照ください。

```
mysqldump -u [DB ユーザー名] -p [Redmine データベース名] > [データ出力先ファイル名]
```

※コマンド実行後に DB パスワードの入力が求められます。

PostgreSQL を使用している場合

pg_dump コマンドを実行してデータベースのダンプデータを取得します。

DB ユーザー名、DB パスワード、ホスト名、Redmine データベース名は[Redmine インストールパス]/config/database.yml 内の username, password, host, database を参照ください。

```
pg_dump -U [DB ユーザー名] -h [ホスト名] -Fc --file=[ダンプデータファイル名] [Redmine データベース名]
```

※コマンド実行後に DB パスワードの入力が求められます。

※PostgreSQL のインストールの構成や設定内容によっては、ホスト名は不要なことがあります。

SQLite を使用している場合

SQLite のデータベースファイル([Redmine インストールパス]/config/database.yml 内の database で指定されているファイル)をコピーしてください。

3. Lychee Redmine のバージョンアップ

ここでは Lychee Redmine のバージョンアップ手順を記載します。

最新版モジュールの入手

Lychee Redmine と rgloader の最新バージョンを入手します。ご購入時にお送りしたライセンス証書にお客様専用のモジュールダウンロード用 URL が記載されていますので、そちらからダウンロードください。ご不明な場合はご案内しますので、弊社のサポート窓口まで以下の情報を添えてご連絡ください。(Lychee Redmine テクニカルサポートセンター)

【ユーザー登録情報】

- ユーザー登録番号 :
- 会社名 :
- 部署名 :
- お名前 :
- 電話番号 :
- E-MAIL :

【保守サービスの情報】

- 証書番号 :
- 対象製品の製品番号 :

バージョンアップの実施

既存フォルダの退避(移動)

任意の退避用フォルダを作成して以下の 2 点をそちらに移動してください。

- [Redmine インストールパス]/rgloader
- [Redmine インストールパス]/plugins 以下のフォルダをすべて

既存プラグイン（Lychee Redmine 以外のプラグイン）については後の手順で plugins 以下に戻します。それ以外のフォルダについてはバージョンアップ後に動作確認ができるから削除してください。

rgloader の配置

入手した最新の rgloader.zip を展開し、[Redmine インストールパス] 以下に配置します。[Redmine インストールパス]/rgloader 以下に loader.rb 等のファイルが展開されているのが正しい状態です。

Lychee Redmine の配置

入手した最新の Lychee Redmine を展開し、[Redmine インストールパス]/plugins 以下に配置します。

以下のプラグインについては関連するモジュールごとにフォルダが構成されており、フォルダ内にプラグインファイルが格納されています。それらのファイルについては「/plugins」ディレクトリに並列に配置しなければなりません。

- **lgc**
- **levm**
- **lychee_basic**
- **lychee_ccpm**
- **lychee_time_management**

例えば lychee_basic の場合、lychee_basic フォルダではなくフォルダ内にある lychee_checklist 等のフォルダを plugins 以下に配置する必要があります。

lychee_basic の配置例 :

```
<Redmine インストールパス>/plugins/alm
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_checklist
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_easy_assigned_user
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_help
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_issue_form
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_issue_spread_sheet
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_notification
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_profile_icon
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_project_dashboard
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_project_term
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_project_view
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_status_color
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_themes
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_version_start_date
<Redmine インストールパス>/plugins/lychee_workdays
```

(Linux のみ)ファイルオーナーの確認と変更

1. 以下のコマンドを実行し、ファイルオーナーを確認します。

```
ls -la [Redmine インストールパス]
```

2. 確認したファイルオーナーに合わせて plugins 以下を変更します。

```
sudo chown -R [ユーザー名] : [グループ名] [Redmine インストールパス]/plugins
```

バージョンアップの実施

1. 以下のコマンドを実行し、必要なライブラリのインストールを行います。

```
cd [Redmine インストールパス]
bundle install --without development test
```

2. 続けて以下のコマンドを実行し、プラグインの DB とリソースファイルのセットアップを行います。

Linux の場合 :

```
sudo RAILS_ENV=production bundle exec rake redmine:plugins
```

Windows の場合 :

```
bundle exec rake redmine:plugins RAILS_ENV=production
```

3. 本手順は **Redmine 6 以上の場合のみ** 実施ください。以下のコマンドを実行します。

Linux の場合 :

```
sudo RAILS_ENV=production bundle exec rake assets:clobber assets:precompile
```

Windows の場合 :

```
bundle exec rake assets:clobber assets:precompile RAILS_ENV=production
```

※注意点：サブディレクトリで Redmine を運用している場合

なお、Redmine に /redmine などのサブディレクトリでアクセスしている場合は、RAILS_RELATIVE_URL_ROOT 環境変数を指定してコマンドを実行してください。

サブディレクトリ設定の例：<http://サーバーIP アドレスまたはホスト名/redmine>

Linux の場合 :

```
sudo RAILS_ENV=production RAILS_RELATIVE_URL_ROOT=/redmine bundle exec rake assets:clobber assets:precompile
```

Windows の場合 :

```
bundle exec rake assets:clobber assets:precompile RAILS_ENV=production RAILS_RELATIVE_URL_ROOT=/redmine
```

※実行した結果については一見すると成功したかどうか分からぬ場合もあるため、出力をテキストファイルに保存しておくことを推奨します。トラブル発生時の調査に必要となります。

(Linux のみ) ファイルオーナーの再変更

バージョンアップ時に新規ファイルが作成されるケースがあるため、前述の手順で確認したファイルオーナーに合わせて plugins 以下を再度変更します。

```
sudo chown -R [ユーザー名] : [グループ名] [Redmine インストールパス]/plugins
```

バージョンアップ後の作業

既存プラグインを戻す

バージョンアップの準備時に退避したフォルダのうち、**既存プラグイン（Lychee Redmine 以外のプラグイン）のみ** を [Redmine インストールパス]/plugins 以下に戻します。

Lychee Redmine をバージョンアップする際、そのまま既存フォルダを上書きしてしまうと不整合が発生する可能性があるため、フォルダごと退避→バージョンアップを実施→既存プラグインを戻す、ことをしています。

Redmine を再起動する

Redmine を再起動します。これはインストール方法や OS によって異なります。例えば Windows で OS のサービスに Redmine を登録している場合は、Redmine サービスを再起動してください。Linux で Apache を経由して Redmine を起

動している場合は Apache を再起動してください。

4. トラブルが発生した場合

バージョンアップを実施した後に Redmine が起動できない Redmine にアクセスできない等のトラブルが発生した場合は以下の情報を沿えて弊社のサポート窓口までご連絡ください。

- ・Redmine のバージョン
- ・Ruby のバージョン
- ・利用している OS とそのバージョン
- ・利用している Lychee Redmine 以外のプラグインがある場合は、名称とバージョン

例：Redmine Work Time plugin (0.4.1)

- ・バージョンアップ時のコマンド実行結果
- ・Redmine 関連のログファイル

例：[Redmine インストールパス]/log 以下のログ

以上